

徳島県立農林水産総合技術支援センター
令和5年度 第2回外部評価委員会 議事録

日時：令和5年12月26日（金）

場所：農林水産総合技術支援センター大会議室

1 試験研究活動の評価

○農業分野の取組

<意見・質疑応答>

●ポリネーター（受粉昆虫）監視システムについて（質疑）

委員：システムについて分かりやすく説明してほしい。

回答：イチゴ等の受粉昆虫としてミツバチを利用しているが、その活性度を調べるもの。巣箱の上部にカメラが設置しており、ミツバチが出入りするとその数を数えることができる。受粉が必要な時期に出入りが少ないと、十分な受粉が期待できないこととなる。

●「有機農業面積拡大技術」について

委員：3つの新しい取組（県内の有機質資材による有機施肥体系の確立、イチゴによる有機JAS適合病害虫防除技術の確立、除草剤に頼らない早期水稲用防除技術の確立）を挙げているが、一番早く効果が期待できるものは何か。

回答：どの取組も進めていくが、特に「除草剤に頼らない早期水稲用防除技術の確立」については、県内の生産面積の多くを占める水稲での取組ということで、力を入れていきたいと考えている。

●ナシの新品種開発によるブランド力の向上について（質疑）

委員：ナシの新品種については、他県でも取り組んでいると思うが、どのような特徴があり、ブランドに結びつけていくのか教えてほしい。

回答：徳島県で生産しているナシは、幸水、豊水が2大品種であり、今回選抜しているのは、それら品種よりも熟期が遅い、出荷時期が重ならないものである。加えて大玉で味の良いものを選抜することで、ブランド化につなげていきたいと考えている。

○畜産分野の取組

<意見・質疑応答>

●阿波とん豚について（質疑）

委員：阿波尾鶏はスーパーでよく見るが、阿波とん豚はどこで購入したら良いかわからない。年間どのくらい生産し、どこで売っているのか。

回答：阿波とん豚は現在、3つの農場で生産しており、生産頭数は年間350～450頭と希少価値があり、流通はほとんど徳島県内であることから、徳島に来ないと食べられないものとなっている。販売店はブランド確立協議会にて指定しており、26店舗あるところ。県畜産協会のHPに掲載している。

○林業分野の取組

<意見・質疑応答>

●エリートツリーについて（質疑）

委員：花粉症に悩んでおり、花粉の少ないスギが育苗されていると聞いているが、どのようなものか。

回答：エリートツリーであり、花粉量が少なく、通常の1/10の品種もある。

エリートツリーは育苗段階の環境管理や定植後の獣害対策が必要であることから、今後もさまざまなデータを収集し、伐採後の資源循環につなげていきたい。

○水産業分野の取組

<意見・質疑応答>

●リアルタイム水質情報発信について（質疑）

委員：今までは漁師が命がけで海に出て海水を汲んできたものを分析していたが、それがリアルタイムで見られる環境となったことはありがたい。栄養塩についても情報発信の対象となっているのか。

回答：現在、確立しているのは、水温、塩分、潮流を多層的に配信しているところ。栄養塩については、現在も漁業者からの協力に頼っている。新しい調査船の導入により、栄養塩についてもリアルタイムに発信できるよう取り組んでいきたい。

○特定課題～自給飼料用トウモロコシの生産体制の確立～

<意見・質疑応答>

●水田における飼料生産について（質疑）

委員：現在、米価下落等により水田が余っている状況。については、この技術の水田に活用してはどうか。

回答：この取組については、自給飼料の生産と併せて、畑地の連作障害の解消として作付体系に組み込むことを想定している。水田については、国策により飼料用米やWCSの取組があるので棲み分けし、水田機能を活かした自給飼料生産を進めていけたらと考えている。